（別紙書式）

2026年頭頸部外科月間優秀企画賞　申請書

作成日　　2026 年 8月 7日

地方部会名	栃木県地方部会
代表者名	伊藤　真人
担当者名	野田　昌生
活動のタイトル	多世代×多職種×地域連携で広げる頭頸部外科月間 ― 医療者教育から親子啓発までをつなぐ「栃木モデル」
アピールポイント	本企画の最大の特徴は、頭頸部外科月間を「単発の講演会」で終わらせず、①医療者連携、②市民啓発、③個別相談、④次世代教育、⑤地域広報を一体化した点にある。 県内主要4施設が協力し、開催したキャンサーボードには医療者40名超、市民公開講座には80名以上が参加し、鼻の日無料相談会では10名の個別相談に対応した。 さらに講演会だけでなく、大人向け20枚・子ども向け13枚の計33枚の啓発ポスターと、子ども向けオリジナル絵本3冊を制作した。 これまでは頭頸部がんを成人に対して啓発するイベントが主だったが、今回は小児を対象に、白衣・診察・超音波体験などの子ども向け企画を新設し、親子で医療に触れ、学ぶ入口を創出した。さらに、下野新聞、行政のデジタルサイネージ、図書館、児童館、商業施設、医療機関へ広報を展開し、会場内にとどまらない啓発を実現した。「医療者→市民→子ども・家庭→地域」へ情報が広がる、継続・発展可能な地域啓発モデルを構築したことが本企画の成果である。
表彰の対象となる取り組み等の概要を記述して下さい。図表を添付頂いてもかまいません。	栃木県では、2026年度「頭頸部外科月間」を、単発の講演会にとどめず、医療者連携・市民啓発・個別相談・次世代教育・地域広報を一体化した多世代参加型プロジェクトとして展開した。7月23日には、県内主要4施設が参加する頭頸部癌キャンサーボード講演会を自治医科大学でハイブリッド開催し、40名を超える医療従事者が参加した。本講演会では、各施設の診療の特徴、症例、研究活動を共有し、施設・職種を越えた連携強化につなげた。 8月2日の市民公開講座には80名以上が参加し、頭頸部がんの診療、QOL、医療安全について専門医が分かりやすく解説した。同日には鼻の日無料相談会も開催し、約10名の個別相談に対応した。 本年度の新規企画として、大人向け20枚、子ども向け13枚の計33枚の啓発ポスター掲示と、子ども向けオリジナル絵本3冊を制作した。 さらに、白衣・診察・超音波体験、ゲーム等を組み合わせた子ども向け体験コーナーを設け、親子で医療を学べる機会を創出した。 広報についても医療機関に限定せず、新聞、行政デジタルサイネージ、図書館、児童館、商業施設等へ展開した。医療者から市民、子ども・家庭、地域社会へと啓発を広げる仕組みを構築し、頭頸部疾患の理解促進、早期受診の啓発、地域連携、次世代への健康教育を同時に実現した点が本取組の特色である。企画ごとに対象を分断せず、一つの月間活動として有機的につなげ、会場内の啓発を地域全体へ波及させた。継続実施や他地域への展開も可能な、新たな地域啓発モデルを提示した。